

不動産IDを活用した 契約管理適正化・保険料算出の迅速化の可能性

2023年5月30日

損害保険ジャパン株式会社
企画開発部

松本 美岐



DX推進の課題

【当社が抱えるDX推進の課題】

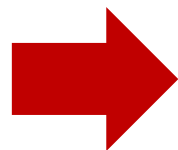
- 1) 保険契約は証券番号をキーに保険金支払や引受実績の確認をする必要がある。一方、証券番号は契約期間ごとに変わるため、複数年に渡る保険金支払や契約引受実績を確認するのに時間を要する。
- 2) 保険契約時には複数情報（建築年月日、面積、構造級別など）が必要であり、情報取得も含めると契約締結までに時間を要する。
- 3) **他企業との情報連携に課題**がある。

【マンション管理業協会の課題】

マンション管理適正評価制度（以下、評価制度）の評価結果データを**他企業と連携するのに課題**がある。

【野村不動産の課題】

物件情報等のデータを活用した新たなサービスの検討において、**他企業との連携に課題**がある。



「他企業との連携」が共通課題

不動産IDを活用したビジョンと検証方法

不動産IDを情報連携の共通項とし、損保ジャパン、マンション管理業協会、野村不動産の各社が保有するデータを連携し、各社の価値創出と保険料算出の迅速化の可能性を見出したい。

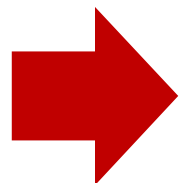
【検証1：保険契約の適正管理】

マンション管理業協会と損保ジャパンの双方が保有するデータを連携し、マンション毎に双方向から総合的な評価を行い、**マンションの市場価値の向上に寄与するサービス等に活用することができるかを検証**する。



【検証2：保険料算出の迅速化】

マンション管理業協会・野村不動産・損保ジャパンの各社が保有するデータを連携し、保険料算出に必要なデータ（建築年月日・付属設備情報等）を連携することで**保険料算出が迅速化する可能性を検証**する。



**不動産IDにより、各社の課題である情報連携が可能となり、
新たな価値創出の可能性が見出せる**